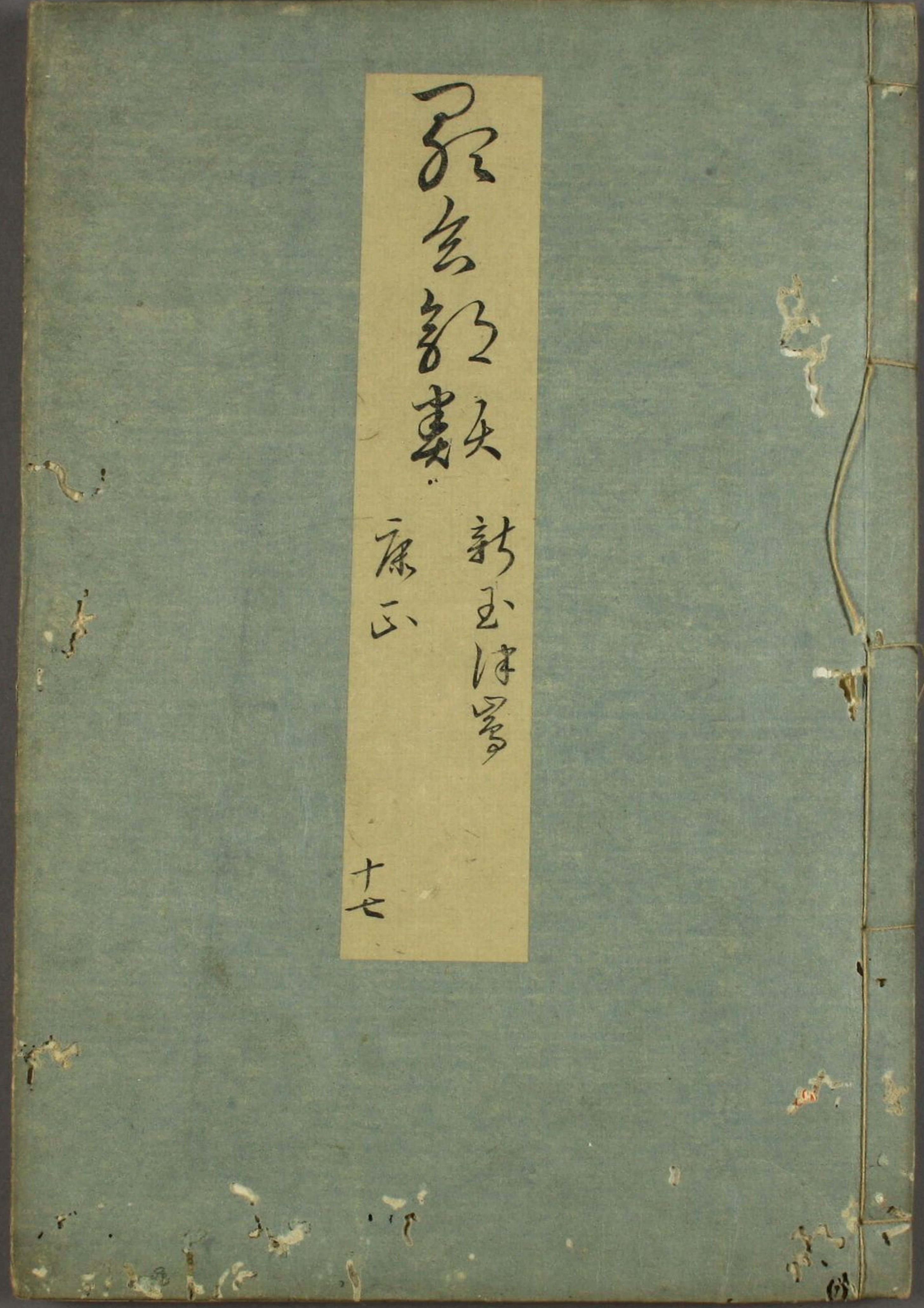




新玉海

新玉海

原正

十七





新玉津寫社哥合

貞治六年三月廿二日



題

浦霞

尋花

神祇

作者

左方

圓白從一位藤原朝良良基

右大臣正二位藤原朝良實俊

從一位藤原朝良內大臣公忠

從一位藤原朝良前內大臣實夏

正二位行陸奧出羽按察使藤原朝良實繼

正二位藤原朝臣良冬

正二位行權大納言右近衛大將藤原朝臣忠基
征夷大將軍正二位源朝臣義詮

正二位源朝臣重資

從二位藤原朝臣基隆

從二位藤原朝臣定宗

從二位藤原朝臣實名

正二位行左近衛中納源朝臣善成

從三位行左近衛中納源朝臣冬實

西園寺内大臣女

大納言公直母

後醍醐院女苑人可代

正四位下行左近衛中將藤原朝臣家尹

正四位下行左近衛中將藤原朝臣行滿

從四位下行左近衛中將藤原朝臣為邦

苑人正五位上行左少辨藤原朝臣仲光

正五位下行右馬頭源朝臣良賴

吉見

前伊豫守正五位下源朝臣貞世

今河

右位從五位下三善朝臣次實連

布施彈正

僧正法中大臣和尚位慈能

法務僧正法下大和尚位光祿

持少僧都法眼和尚位經賢

權律師法橋上人位則祐 赤松

沙弥心省 今河

沙弥元威 中条

沙弥仍海 濱名

沙弥昭覺 本郷

從一位藤原朝長 九条前園白經教

右方

從一位藤原朝長 近衛前園白道嗣

内大臣正二位行左近衛大將藤原朝長師良

從三位宣子

從三位資子

從四位上行右近衛持中藤原朝長為室

沙弥欽意 入道大納言

持中納言為秀女

正三位行持中納言藤原朝長為秀

正三位行權中納言藤原朝長時光

參議從二位行侍從藤原朝長行忠

持中納言從三位藤原朝長忠光

正三位藤原朝臣實遠

從二位藤原朝臣大和尚位果守

從二位藤原朝臣大和尚位果守

從三位藤原朝臣大和尚位果守

從三位藤原朝臣大和尚位果守

僧如阿

從四位下行大和尚位果守藤原朝臣嗣定

從中納言經定女

徽安門院小宰相

散位從五位上藤原朝臣為敦

散位從五位上三善朝臣信方可野

散位從五位上源朝臣氏光十波右馬

正六位上行大湯門小尉平朝臣貞秀留

僧正法下大和尚位桓覺

從三位行大花口越中口管原朝臣長繼

小比叡祢宜從四位下行中務大補祝部宿祢成光

散位從四位下加茂縣主雅久

沙弥道守譽 休本

沙弥性威 安成

散位從四位下安倍朝臣宗時

瀧堅 樂阿弥

太政大臣從一位源朝臣通相

誦師

讀師

判者

一番 浦霞

左

岡白

紀の海やもも雲とたらしめしやふゆのきなりけ

右

お雲白を傍

雲れもあつてあつていづれあまの

二番

左

太大臣

つれや風もわづれ代ふれいへ雲もきこえん

右

内大臣

もいかやあまのきつ乃あま雲煙とこめてたれやそらん

三番

左

前内大臣

夕日影うつ浦の波やうへあもそてぬねれむそらん

右

從三位宣子

みづのや浦うふらにれふもてにあらはれぬを

四番

左

お内大臣

右

從三位資子

みづのや浦うふらにれふもてにあらはれぬを

五番

左

按察使實継

右

右を按察使實継

みづのや浦うふらにれふもてにあらはれぬを

六番

左

お大納言

右

お大納言

みづのや浦うふらにれふもてにあらはれぬを

七番

左

右を大將忠基

右

右を大將忠基

みづのや浦うふらにれふもてにあらはれぬを

八番

左

征夷大將軍義詮

右

右を大將忠基

みづのや浦うふらにれふもてにあらはれぬを

初續古

もれ〜やみ〜うとやいん〜もてゑの〜うとやいん

九番

お中納言主膳

い〜れおまの〜もてや〜やの〜ちり〜

右

檜中納言時光

まの浦やね〜まの〜め浦〜あひ〜み〜うとやいん

十番

左

お中納言基隆

り〜浦やまの〜み〜い〜ん〜わ〜て〜うとやいん

右

参儀行忠

まの浦乃芦〜れ〜の〜うとやいん

十一番

左

お参儀定宗

新續古

〜の浦〜代〜も〜み〜い〜ん

右

太後御忠光

あ〜ん〜ち〜うとやいん

十二番

左

お参儀言ふ

あ〜の〜うとやいん

右

お参儀實遠

まの浦〜うとやいん

十三番

左

左近中将善成

ま〜の〜うとやいん

右

権左衛門守

あ〜の〜うとやいん

十四番

左

方在指中弱冬實

ゆふあき乃きれうくも雲をあらうのほろわ

右

檀大綱之序

よしの浦やまゝふりあはれしきまひあはれ橋立

十五番

友

西園寺内大臣女

たんとそむふもあくとみなりふあひされうそ

右

右兵部督遠

[illegible]

十六番

友

大納言公直母

あがれものゝまふらふあはれもの

大

外參議爲忠

そつめやふのひもふふいふにふれふやふとけむん

十七番

友

後醍醐院女苑人
五代

新續古

ちかき煙もあゝあゝく雲のおほくうゝの松原。

右

於阿

[illegible]

十八番

丸

友在檣中為家尹胡氏

とみ海やいづちまであむらんゆりのみちと乃きれぬか

大

左近權少將嗣定朝臣

はなとてやあまもろく
田部此よきものなり
よきとれ渡波

十九番

左

左を控中ね行浦胡に

はろくとあつそいふ方のうらめしうれうれと

右

控中ねを結定女

まろれと燈とやうんもつとけとあれとつとけと浦

二十番

左

左を控中將為邦胡に

あつそを結とつとけとあつそとあつそとあつそと

右

徽安門院小宰相

まろれとあつそとあつそとあつそとあつそとあつそと

二十一番

左

左を辨仲光

ちいさな浦のうらめしうれとあつそとあつそとあつそと

右

散位為敦

まろれとあつそとあつそとあつそとあつそとあつそと

二十二番

左

左を頭氏光

あつそとあつそとあつそとあつそとあつそとあつそと

右

あつそとあつそと

あつそとあつそとあつそとあつそとあつそとあつそと

二十三番

左

左を伊藤守貞世

まろれとあつそとあつそとあつそとあつそとあつそと

右

散位氏光

あつそとあつそとあつそとあつそとあつそとあつそと

二十四番

左

散位資連

王濟真

はくとゆくとみゆきふとてはるあふの橋立

右

九
後
少
尉
平
貞
秀

たふさうとてやうなうらなひのめ
二十五番

友

市僧心慈能

つれづれやまゝに松乃喜多し浪のつゝもやとびろふ

右

傳心植光

けいれんをひきおこすは乃満のきりともぬりり。

二十六番

方

僧正光海

みづのちのまゝあつてあのかういふじよの酒

右

大飛江長流

乃大箇やふせに流ハ世宗よて高計を多つと云ふ

二十一 番

五

檀少僧却經賢

ふそふふあきゆく毎日をうけて酒をたのむより

右

小比獻祿宜成光宿祿

まみゆやうともきうんちてあたひふりぬ

二十八番

方

檀律師則祐

あはれとてそふとみ流る風よのちとまらば伏へ

店

散位雅久縣主

阿とを去りてとをば^③めりてにみりてれうとあり

二十九番

方

沙弥心省

うねせ乃吹上の浪もみちうきかに見えよこりる雲の明かり

右

沙弥乃守卷

目のつらふあはれなりて海のあはれをのぞく
三十番

左

沙弥元成

まなうの浪さしてきこえし
右 沙弥性威

うねりあはれなりて海のあはれをのぞく
三十一番

右

沙弥仍海

まなうの浪さしてきこえし
右 散位宗時朝臣

うねりあはれなりて海のあはれをのぞく
三十二番

左

沙弥昭光

まなうの浪さしてきこえし
右 温厚

うねりあはれなりて海のあはれをのぞく
三十三番

左

お累白

まなうの浪さしてきこえし
右 太政大臣

うねりあはれなりて海のあはれをのぞく
三十四番 尋花

右

関白

まなうの浪さしてきこえし
右 お累白

みづゝ雪ふたふのうゝあゝ孫もゆふをうかくの海にち
三十五番

三十五番

丸

右大臣

山つゝあふりひきこみ入らん都よりあはれ花もあるを
右 内大臣

右

内大臣

あはれにふさふさの心も又あはれ山の雲やあはれん
三十六番

三十六番

丸

お内大臣

阿久ろあろと花のちろふそ山路の雲といふあぢん

右

從三位宣子

三十七番

三十七番

友

外因大元實

かつとみち海ふもやう欄ろくをきとせやるらん
右 從三位次貝子

右

從三位次男子

三十八番

三十八番

九

按察使實繼

たつてそなたも魚のさし落れぬ事を思ふのや自づ
 太 為重物に

右

為重物

山あふ知はるむの陰なれやさうふはむあふのまゝ
三十九番

三十九番

左

お大納言良冬

いくそいふ花はゆきて白雲のうへ山はるるをみん
右 歎息

右

款古息

はるるむとえゆるものいろのきよき人さきん

王津嘉

五

四十番

左

右と大将忠基

えあつてもむきたりふつうつう山道の邊よりきて

右

檀中絶を為す女

さうらうきりきりあやうききりきり花の信はねて

四十一番

左

征夷大將軍とあはれ

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

右

檀中絶を為す

いづうふりてさうらうつう目に見えてもさうなむも

四十二番

前中絶言を言

ほいほいほいほいほいほいほいほいほいほいほい

右

檀中絶を言

ふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふい

四十三番

左

お中絶言基隆

本のりふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

右

泰深り

たつひいひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

四十四番

左

お参縁定宗

あつてゆいてのるふいふいふいふいふいふいふいふ

右

右邊の縁定宗

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふいふい

四十五番

新續古

五

左

お冬様より

都人いしきと花のういしきとあはれぬ山姥のやうな

右

お冬様より

けしきとあはれぬ山姥のやうな

四十六番

左

お冬様より

みづきとあはれぬ山姥のやうな

新續古

右

お冬様より

けしきとあはれぬ山姥のやうな

四十七番

左

お冬様より

あはれぬ山姥のやうな

右

お冬様より

あはれぬ山姥のやうな

四十八番

左

お冬様より

あはれぬ山姥のやうな

右

お冬様より

あはれぬ山姥のやうな

四十九番

左

お冬様より

あはれぬ山姥のやうな

右

お冬様より

あはれぬ山姥のやうな

五十番

左

お冬様より

女苑人可代

いそにふねなふりうのうきをもふねくふりうなふ

右

ね何

花ゆふいふふりうふりうねくねくねくねくねくねく

五十一番

右

家尹胡臣

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右

嗣定翁臣

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

五十二番

右

り輔翁臣

たふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右

持中細工經定女

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

五十三番

左

お邦翁臣

はくふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右

小宰相

咲ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

五十四番

右

仲光

やふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右

為教

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

五十五番

右

氏親

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

太

信方

あつてはふいふと花のうしろをみれば

太

貞世

くもさういふやうな花のうしろをみれば

太

氏光

本のもういふひさねりあつてはふいふと

太

資連

あつてはふいふと花のうしろをみれば

太

平良素

ふいふと花のうしろをみれば

五十八番

太

お信正慈純

あつてはふいふと花のうしろをみれば

太

信正植え

あつてはふいふと花のうしろをみれば

五十九番

太

信正光海

あつてはふいふと花のうしろをみれば

太

大花のうしろ

あつてはふいふと花のうしろをみれば

六十番

太

信正経賢

あつてはふいふと花のうしろをみれば

太

成光宿祢

六十六番

左

お冥白

花うもろひてそふくーあをりやふひいあー咲也

右

左政大臣

ふりもそけいふひつむのやうきかふひのトセ

六十七番 神祇

左

園白

^{新續古}あのみふらうちうのまぢもけれあー玉は將姫

右

お冥白 々々

うけのみれーちやうひらそほさる玉はーま姫

六十八番

左

右大臣

しるきり落もそれねきるあひらとそあつ玉はーま姫

右

内大臣

まじーふりものえよまらうしけようつもと祢のうめを

六十九番

左

お内大臣

いーちもちりいさそーちさーゆりやまー将ね祢のふを

右

従三位宣子

いーのえといそみいじまーちりくさうあ祢のまを

七十番

左

お内大臣 々

あまーはらまをみそそまけー祢代のはらあまをし

右

従三位宣子

いーいーもみいやういじまけー祢のけけ乃はまうーに

七十一番

下

捕家使々々

いれひらとみく玉はくくるを世と照に

右

為重朝臣

新續古

さくふの珠のいとわ代をそたふぬ玉の玉つ姫

七十二番

左

お大納言を

やうらふきりもるを照にんいさく玉つはひあ

右

歌を

ぬきふみせとくもさうとむいけく玉はくく

七十二番

左

お大納言を

さうらういさく玉はくく人あふまふさくはのる

右

指中納言を

みくさふに玉はくくはく代乃きつとくくやゆきま

七十四番

左

征夷大將軍家

神とさくひらとさくひ玉はくくあふみく玉はくく

右

指中納言を

えはくさくさくひらと玉はくくあふみく玉はくく

七十五番

左

お大納言を

浪乃下にさく玉はくくあふみく玉はくく

右

指中納言を

いさく玉はくくさく玉はくくあふみく玉はくく

七十六番

左

お大納言を

都よりひらきおきしついでに海へいりていふとてあはれん

左

冬篠刈り也

君代よりひらきしついでに海へいりていふとてあはれん

七十七番

左

お冬篠刈り也

歸りてきよきとて玉にまけ代のねよりいふとて

右

右邊の海へい

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

七十八番

左

お冬篠刈り也

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

右

お冬篠刈り也

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

七十九番

左

お冬篠刈り也

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

右

お冬篠刈り也

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

八十番

左

お冬篠刈り也

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

右

お冬篠刈り也

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

八十一番

左

お冬篠刈り也

いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

五十二番

二十

右

右兵衛持るを

けりゝあゝいゝふゝいゝれてひりもそいぬ玉はゝね
八十二番

右

大納言の母

玉はゝゝ花の如くはゝれゝゝ君をもちゝれちゝし
右

おゑ後みゑ

玉はゝまたゝねはゝふゝゝあゝのゝゝゝちちねまたり
八十二番

右

女一人可代

あゝゝゝあゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
右

ねり

あゝゝゝねのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八十四番

右

家尹朝臣

さうゝゝにねもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
右

嗣定朝臣

代ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八十五番

右

り湯朝臣

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
右

持中朝臣の娘

さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八十六番

右

為邦朝臣

今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
右

小亭ね

五十二番

二十

ふる浪乃はてのまづしきしにゆみく河のまづねい
八十七番

た

仲光

まれば乃るあるは代のまづしきしにゆみく河のまづねい
た 為敷

いづしきしにゆみく河のまづねい
八十八番

た

氏光

まれば乃るあるは代のまづしきしにゆみく河のまづねい
た 作方

まれば乃るあるは代のまづしきしにゆみく河のまづねい
八十九番

た

とせ

九まふらふゆみく河のまづねい
た 氏光

やづしきしにゆみく河のまづねい
九十番

た

資連

あつたある神のいづしきしにゆみく河のまづねい
た 平太夫

あつたある神のいづしきしにゆみく河のまづねい
九十一番

た

お侍の意能

いづしきしにゆみく河のまづねい
た 侍の意能

まれば乃るあるは代のまづしきしにゆみく河のまづねい
九十二番

九十二番

新拾遺

た

信玄光海

玉はしらたじろくおふたれ紫の露もみくもやうらん

た

大花江生信

あふ又流とそねとやうくろえをうつと玉はしらひめ

九十三番

た

檀少信那経賢

ちやあつ神代のるそそれきふのうてあつ玉はしら姫

た

成光若孫

君ふみくろとや玉はしらいりのまゐもえりきん

九十四番

た

檀律師則祐

あ代のきりいりえとらたてそみくあつはひち

た

雅久縣主

いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

九十五番

た

心省

をろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

た

道守巻

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

九十六番

た

元威

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

た

性威

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

九十七番

丸

仍請

いそねひらやうじ玉清乃あさけさ時よあひら
右
ふふ何物に

少時氣

九十八番
 終れくあゝそ今いふのやまのふりう一玉つはね

九十八番

友

昭笑

玉にけり 都のちりし海りやねみちちりひそくん
右 温堅

太

蕩堅

おとすけりて伏しをて玉にけりたあろえりし
九十九番

九十九齋

友

別雲白

みづとえぬこまの露の玉つは神も光りぞる今こころやハ
大 大政大臣

大

大政大臣

下もろろみもあろろふ玉清海

みきつぷやまとことし

歌合 内裏

康正元年十月廿七日

題

庭殘菊 水鳥

松雪深 忍久戀 祝言

作者

左方

後土御門院元

女房

貞常依見殿

式部卿親王

持通二条殿

開白

教房二条殿

右大臣

權大納言公經

右方

兼良二条殿

准右

轉法輪安量

前内大臣

大將軍

右大將義政

權大納言資任

權大納言親直

西三条公保

入道前内大臣

秋合

權大納言勝光

大宰權帥實雅

沙弥淨空

左衛門督雅親

右兵衛督為富

左近權中將雅康

前大僧正義連

前大僧正滿意

權少僧都忠雅

讀師

誦師

判者

左衛門督雅親朝臣

一番 庭殘菊

左 勝

女房

わひみゆむくうけりふもやう秋乃ふもはゆきむくうけり

右

准后

おきくもまうけりふもはゆきむくうけり秋乃ふもはゆきむくうけり
たすわひにゆひてうらふ菊乃ふもはゆきむくうけり
くすあしゆりちあけりわたりてゆきむくうけりわたりて
くすあしゆりちあけりわたりてゆきむくうけり

二番

た

開白

紅葉きくふれはるるあうれてゆきむくうけり秋乃ふもはゆきむくうけり

右 勝

右近大将義政

きくふれはるるあうれてゆきむくうけり秋乃ふもはゆきむくうけり

秋合

二

三番

た葉れうらふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
とわのなむひややあえゆふふた離りあつたにふ
ううわの葉れうらふはうふちうけううわいのふつ花のたふと

た勝

武部卿親王

くれ秋のたふはうふちうけううわいのふつ花のたふと

右

前内大臣

秋のたふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
たふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
ゆふ秋のたふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
ううわの葉れうらふはうふちうけううわいのふつ花のたふと

四番

た

右大臣

雲れうらわれはうふちうけううわいのふつ花のたふと

右勝

沙弥淨空

らうらうの葉れうらふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
たふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
秋のたふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
ゆふ秋のたふはうふちうけううわいのふつ花のたふと
ううわの葉れうらふはうふちうけううわいのふつ花のたふと

五番

た持

前大僧正満家

をう面うわれはうふちうけううわいのふつ花のたふと

右

前大僧正義連

いひまひてや井の底とばかりのつらとさうりも常のつられ
たわひなりとさうりもつられと古今集のやうにわひ
しとさうりもつらきつられつらきつらきつらきつらき
おちとせぬ事ゆゑにわひとさうりもつらきつらき

八番

た勝

入道常内大臣

花とさうりもつらきつらきつらきつらきつらきつらき

右

お大納言資任

木のこころとさうりもつらきつらきつらきつらきつらき
たうりもつらきつらきつらきつらきつらきつらき
の葉とさうりもつらきつらきつらきつらきつらき
みづの葉とさうりもつらきつらきつらきつらき

七番

た

た束門傳雅親

いづれもつらきつらきつらきつらきつらきつらき

右勝

お大納言資任

菊のこころとさうりもつらきつらきつらきつらきつらき
たうりもつらきつらきつらきつらきつらきつらき
海とさうりもつらきつらきつらきつらきつらき
のつらきつらきつらきつらきつらきつらき

八番

た持

大宰権帥實雅

霜とさうりもつらきつらきつらきつらきつらきつらき

右

権大納言勝光

白菊のこころとさうりもつらきつらきつらきつらきつらき
たうりもつらきつらきつらきつらきつらきつらき
たうりもつらきつらきつらきつらきつらきつらき

九

九瀬門曾雅親

月影う池乃玉藻のをれふあけりやとよしのりき

右勝

希大僧正義蓮

町よりうもむら池の面はなほのこもたふれあ
たのそめううううううううううううううう
ううううううううううううううううううう
あまはらうもやうううううううううううう
のあまううううううううううううううう
わううううううううううううううううう
月なうううううううううううううううう
いうううううううううううううううう

十二番

九

大宰権帥実政

此ううううううううううううううううう

右勝

沙弥淨空

あまはらうううううううううううううう
あまはらうううううううううううううう
ひあまはらううううううううううううう
くあまはらううううううううううううう
わあまはらううううううううううううう
ゆるうう

十三番

九持

入道常因大信

わあまはらうううううううううううう
右
唯后
わあまはらうううううううううううう

たわ鴨のさへく入るもあはれいゝいゝとて
あにわの風情集の中かゝめとんよふら作らふ
いゝちの福もあはれいゝいゝとて
あにわの風情集の中かゝめとんよふら作らふ
いゝちの福もあはれいゝいゝとて

十番

左勝

武部卿親王

あにわの風情集の中かゝめとんよふら作らふ
いゝちの福もあはれいゝいゝとて

右

権右衛門忠雅

あにわの風情集の中かゝめとんよふら作らふ
いゝちの福もあはれいゝいゝとて

十五番

左

女房

あにわの風情集の中かゝめとんよふら作らふ
いゝちの福もあはれいゝいゝとて

右勝

右近大將義政

あにわの風情集の中かゝめとんよふら作らふ
いゝちの福もあはれいゝいゝとて

十六番

左勝

右大僧正満意

た不慮獲れりるすのふなりてつる人
あゆや

二十番

左

開白

わしや霧うらなれぬ水もれぬ

右勝

権大細言勝光

あゝこの春のまは川の青い水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ
わしややなれぬ水もれぬ

二十一番 松雪深

左持

武部卿親王

下りの指さしふあつてつる者の松雪

右

右近大將義政

ささぎのむすもあつてつる者の松雪
下りの指さしふあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪
ささぎのむすもあつてつる者の松雪

二十二番

左勝

茶大僧正満玄

あま新雪のあけ雪にたれぬ風情さひく
あわゆれしやうめつゝくもあけぬさう
わしやうんといふりてまふあけぬれしな
のひも雪のさけつゝくもあけぬ

二十六番

左 膳

右 大臣

わがわあきとあけ雪にたれぬ松の白雪

右

権左衛門都忠雅

とわなれし末の雪うはぬぬはなや越雪うはぬ
あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも
つゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも
あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも
あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも

あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも

二十七番

左 持

大宰権師実雅

あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも

右

右内大臣

あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも
あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも
あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも
あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも
あけつゝくもあけ雪うはぬあけつゝくも

二十八番

左 持

八道前内大臣

雪のうらうらとれそ池水のこころと松のきこのこころ

右

兼大侍正義連

ほひぬくやとむねのなほねとせしめ嵐うき
た命池のけしみの松雪うらうらとれそ
うけふふをたよるもあふやうくゆりち新松
とふれとゆりうき又優美也対ふよううき

おのり可侍

二十九番

左

左衛門侍雅親

うけふなを妻の紫れとらにさるる雪ふらうき

右勝

准后

ちき鶴のうらうきとやあふやうき雪とれとらと松の妻
た妻の紫らうきとせとてとらうきとせとら

てうらうきはみふれや優うきとゆきとちき
松の妻とてき鶴の雪うらうきと松とあふれ
んけうきとてきせきとちの務めくゆき

三十番

左持

女房

わきあふ左とのゆきうきとやあふやうき松の梢うき

右

淑深淨元

も川海うらうきと松の梢うきと松の梢うき

たの雪一村右茶子尋歌共其心勝芳不分明

三十一番 念久戀

左勝

右大臣

ふれとてきとては又けしみの年のなうきとらけくうき

右

兼大納言資恒

いづれ我身とわだの露やたなめり神よあひあはれ

右

沙弥淨空

う月とあふらわくよあますまのちとれあまのさき
んまと秋のほろは神のあまのさきとすくくや
るんくくやくくくあまのちとれあまのさき
なうさねをちくくやけをちりあまのさき
さいてさくあたまをちりあまのさき
とやうくくや勝芳とさくく

千五番

左

関白

うちあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき

右勝

大兵衛勝芳

三千六番

左勝

女房

うちあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき

右

大僧正義蓮

うちあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき

三千七番

左

大東門待雅親

うちあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき
うあ月とあふらわくよあまのちとれあまのさき

右勝

右近大將義政

わつちかゝるもこと月とあてたのちみられしとも
たあゆひなれしともいふらんともせだか
もうとふさうねち歌わつしわらわら
たゆらち事とゆらちのゆらちとあつた
もどきんのうさふ娘歌なりあまゆらち

右勝

平番

右

権大納言公經

ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん

右勝

権少將都忠雅

ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん
た下ゆきいさのせうさふらん

右勝

平九番

右勝

権大僧正満義

ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん

右

権大納言勝光

ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん
ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん
ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん
ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん
ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん

平番

右

入道希内大昌

ゆきいさ波もゆきいさのせうさふらん

四十四番

左

右大臣

うめくふ又るあつとほとて君方代りわたりしをや

右勝

右近大將義政

神代ちと三種のちとほとていふとけけく君のちと

たす尚書法範の扁洛書事元規大治世之法隆相

叶祝云右方三種神武我朝靈寶之靈寶也尤為勝

四十五番

左持

開白

伐成地との男とわたりや君と臣とのちとてあやめ

右

准后

うらたがさ天和鶴ねのほつまでもけけとけけなりしを清風

たそ白神一りゆへ

四十六番

左勝

大宰權帥実雅

はつひのちとてあつとほとて君方代りわたりしを

右

前大納言資任

君のあつとほとていふとけけく君のちとて

ち秋君の代にうらとてあつとほとていふとけけく

このちとていふとけけく君のちとていふとけけく

つわまるといふとけけく君のちとていふとけけく

ふりともいふとけけく君のちとていふとけけく

四十七番

左持

入道前内大臣

鶴龜の教とてあつとほとていふとけけく君のちとて

右

権大納言親通

軍八番

凡

九
東門舊雅親

右勝
権右衛門忠雅

右
勝

權少儒都忠雅

我君のようひといふまじれうや漢の太師を去の製す
お君のようひといふまじれうのまじれうはすうはす
うううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううう

四十九番

九

權大納言云繼

いそほまゝく書うをうへきしけれ石を紙に敷てみ即ちその心を
石勝 希内大信

右
勝

希内大臣

ふそなく君の光をまうとせうらなれうのをいゝまてゝまむ
たうれおのいゝか矢うくけなり玉うちをいゝ
わう園をわうりゆれと舞をまうや

五十番

九

雅康胡后

実なる心よりきれ竹のいづれよりきれなり
 右勝
 希大僧正義蓮

右勝

第大僧正義蓮

月日さへもや照もさへつらんよ兼代といくらわきと
た竹さへもや照もさへつらんよ月日さへも
さへもや照もさへつらんよ月日さへも

竹り可為勝

女房 勝三負一持一

式部卿親王 勝三持三

閑白 負三持三

右大臣 勝二負三

權大納言公經 勝一持二負三

入道兼右大臣 勝一負一持三

准后 勝二負一持二

兼右大臣 勝三持一負二

右大將義政 勝一持一

兼大納言資任 負三持二

權大納言親道 負三持二

權大納言勝光 勝二負二持二

大宰權帥多雅 勝一負一持三

左衛門督雅親 負五

左近權中將雅康 負四勝一

兼大僧正滿意 勝三持二

沙弥淨空 勝二持三

右兵衛督為富 勝二持一

兼大僧正義蓮 勝三持一

權少僧都忠雅 勝三負二

